



No. 40
2013 Winter

山松舎
臨南寺

特集

道元禅師ものがたり

16



思いもよらぬ出来事から公家社会や 武士たちからの崇敬を集めていきます

三か条の戒律のもとに

道元の名声が高くなり、興聖寺には多くの僧侶だけでなく在俗の檀信徒も出入りするようになりました。規律の乱れを心配した道元禅師は、三か条の戒律を掲げました。

一、道心があつて、名利を投げ捨てようとする人は来るべし。

一、堂中の人々は乳水のように和合して、互いに道心を鼓舞すべし。

一、出歩くことは好ましくない。必要

でも一か月に一度とすべし。

道元禅師は、興聖寺を修行道場としてふさわしいものにしたと考えていたのです。こうした戒律は、七百八十年後の今も永平寺、總持寺の両本山などの修行道場に受け継がれています。

天皇の一族になる

そんなとき道元禅師も予想していなかったことが起こりました。

仁治三年（一二四二）、鎌倉幕府の

推挙により後嵯峨天皇が即位したので、道元禅師の異母兄の娘の子どもで、道元禅師の甥にあたります。これにより、道元禅師の出自である土御門家は零落していましたが、一挙に脚光を浴びることになりました。

道元禅師のもとにも身分の高い人からの招待が舞い込むことが増えてきました。この年の春には、前の関白、近衛兼経に招かれて説法しています。十二月には波多野義重の屋敷で説法。生死を意識しない生き方を説きました。義重は鎌倉幕府が京都に設けた六波羅探題の評定衆の一人でした。相模（神奈川県）の領主であり、越前（福井）の志比の庄の地頭でもありました。

公家や武士とも深く交流

波多野義重の屋敷で道元禅師が説いた

たのは、

「仏の道を徹底すると、求道心や悟るという意識が抜け落ちるのです。真底から無心になる。すると、生きていることも忘れ、死に臨んでも死を意識しなくなる。今を真剣に生きて後悔しないことが生き切るということであり、死を超える道なのです」

義重をはじめ居並ぶ武士たちは、こうした禅の生き方を求めていました。このとき以来義重は道元禅師の壇越として守護者の役割を果たしていくことになりました。

また、道元禅師は公家社会とも交流するようになり、「新後拾遺和歌集」などの和歌集に公家たちに混じって道元禅師の和歌が収録されています。

「山の端の ほのめくよひの 月影に 光もうすく とぶほたるかな」と、歌人としてもすぐれた一面を見せています。

いよいよ京を離れ越前へ向かうときが迫っていますが、その話は次回といたしましょう。

新しい年の初めに

弁財天祈祷会にお参りを



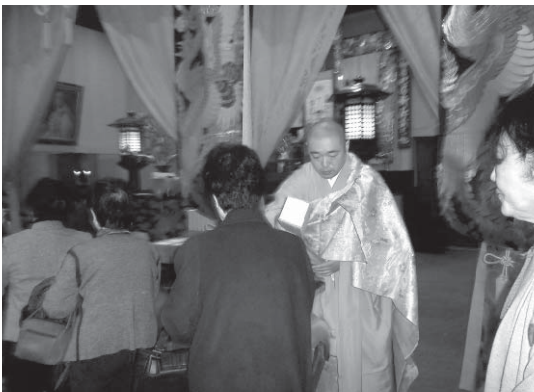
臨南寺では一月十五日午前十時から本堂において弁財天祈祷会を修します。

七福神の一人である弁財天様は、合格祈願、芸能上達、商売繁盛に靈験あらたかと言われています。かつて臨南寺の境内には弁天堂がありました。臨南寺の弁財天様は古くから地域の守護神として信仰されてきました。

弁財天祈祷会では、『大般若波羅蜜多經』六百巻を転読いたします。この經典は、『西遊記』で有名な玄奘法師が馬二十数頭に背負わせてインドから中国へ持ち帰り、四年間かけて訳したもので、古来より大きな靈力を持つと信じられてきたありがたいお経です。ご参拝の皆様とともに、新しい年こそわが国が安らかで穏やかでありますよう、また世界から争いや災害が少なくなりまますよう祈

念いたしましょう。そして、皆様の無病息災・家門隆盛・家内安全を願つて、お札、お守り、破魔矢をお授けいたします。

法要の前には護寺会の会計報告、総代さんのご挨拶がございます。法要の後には寒さを吹き飛ばす甘酒の振る舞いもございます。皆様の厄を払い福を招く弁財天祈祷会、ぜひご家族、お友達を誘い合わせてお参りください。



皆様お一人、おひとりの無病息災・家内安全を祈念いたします。

寺景 臨南百景



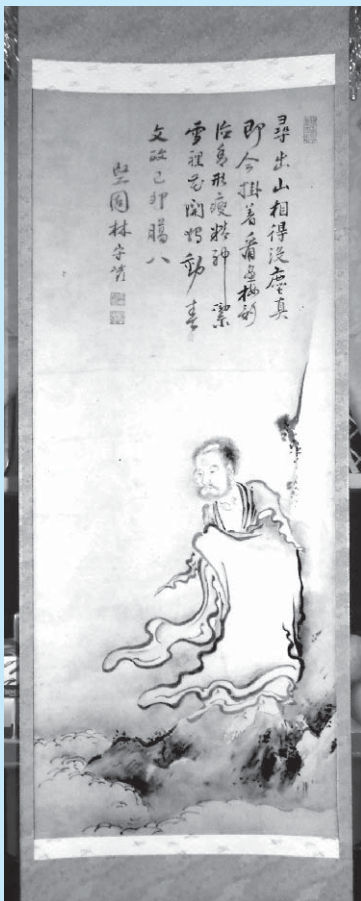
「釈迦出山図」の

掛け軸

この掛け軸は、六年間徹底的な苦行に取り組んだにもかかわらず悟りを得られず、苦行で悟りを得られることはないと確信されたお釈迦様が修行の山から下りられる姿を描いたものです。この後村娘のスジャータに乳粥の施しを受けて元氣を取り戻したお釈迦様は、菩提樹の下で結跏趺坐の禪定に入り、十二月八日の朝、明けの明星を見て仏道を成就されます。

その故事をたたえ私たちも同じように仏道成就を願つて、十二月八日「成道会」の法要を営みます。その時この軸を掛けるのです。水墨画の作者はわかりませんが、上部に臨南寺十三世の守巖初一大和尚の讃があり、文政己卯とあります。これは文政二年（二八九）のこと、明治維新の五十年前にあたります。

「出山の相を尋ね、没塵の真を得たり。即今、掛着して画梅の新たなるを看る。徳香、形瘦、精神潔し。雪裡に花開いて獨り春を動かす」 「お釈迦様の山から下りられる様子に触れると、清浄な気持ちになる。そのお姿は斬新な梅の絵を思い起こさせる。香り高く瘦せた姿、精神の潔さ。雪の中に花開いて春を招く梅のようだ」 そんな意味でしょうか。初一大和尚の秀句といえます。



成道会に掛けられる「釈迦出山図」の掛け軸

早朝坐禅会に参加して

西家利文

十月の第一土曜日の午前六時、

長居公園に注ぎ込むまぶしい光に

背中を押してもらい、本堂へそっと

入ります。入り口で坐蒲をお借り

し、正面に安置されているお釈迦

様に頭を下げ、畳の上にそっと置い

て「本日もよろしく」と周辺の参加

者の方々に無言で挨拶します。坐

蒲を腰に敷き、両足を組み、まずは

足元の安定を図ります。それから

上体を左右に振り、まっすぐになっ

たところで止めます。首も背筋も

まっすぐ伸ばします。お坊さんは「真

上から吊り上げられる形がいい」と

指導されます。

坐禅の形ができ、ふと外を見る

と大きな楠の枝にカラスが飛んで

きてこちらを眺めています。開始の

鐘が静かに鳴り響き、本番が始ま

ります。風に乗ってラジオ体操の音

楽が聞こえてきます。気持ちを落

ち着けるべく、そっと長く息を吐

き出します。

九月は蝉の声が聞こえ、小枝を

ゆすぶる風が爽やかに感じられた

なあ、と思っっていると、突然背後に

畳をする音が……。あまりの静か

さに気持ちが安らいだのでしょうか、

わが身の不心得を反省し、両手を

高く合わせ、頭を斜め左に倒し、警

策を背中にいただきます。静まり

返つた中、少し罪悪感を覚えます。

ただ、バシッという音に何か一本の

筋をいただく気持ちにもなります。

改めて足を組みなおし、背筋を伸

ばし、再度坐禅を組みます。ゆつく

りと呼吸も整い、自然に溶け込む

ような時間がゆるやかに流れてゆ

きます。

終了の鐘に、正直なところホッと

した安堵感に満たされます。あり

がたいお話を聞かせていただき、最

後に参加者全員で般若心経を讀

経します。何か充実した気持ちに

なり、一日が楽しく過ごせそうな

雰囲気になります。

思い起こせば、長居公園でラジオ

体操を楽しんでいた母が他界し、そ

の母の墓を境内に確保できたこと、

今は父も同居することになり、両

親のそばで静かに坐禅を組ませて

いただけるのは何かの縁なのでしょう

うか。終了後いつも報告できるのは

幸せと言えるでしょう。



静かでゆったりとした時間が流れていきます。

臨南寺行事予定(一〜二月)

○ 弁財天祈祷会(本堂)

* 一月十五日 午前十時

新年を迎えて最初の年頭法要です。新しい年がよい年になりますよう、皆様の厄を払い福を招く法要を行います。温かい甘酒の振る舞いもごさいます。誘い合わせてお参りください。



○ 涅槃会(本堂)

* 二月十五日 午後二時

お釈迦様が入滅された二月十五日、涅槃に入るお釈迦様の姿を描いた涅槃図を飾り、供養と感謝の法要を行い、ご入滅をしのびます。法要のあと涅槃だんごが振る舞われます。

* 一月二日〜三日は、寺務所は閉めさせていただきます。

線香、ろうそくは、本堂前で販売しております。

* 第二土曜日の早朝坐禅会と第二土曜日の読書会は、一月はお休みさせていただきます。

* 開門は午前五時、閉門は午後九時となっております。

マトリ合同法要

「大心」に目覚め、実践しよう

がつしよう園マトリの合同法要が、十一月十七日午後二時から本堂で営まれました。法話は千葉県柏市にある慈本寺副住職の薄永大明老師です。道元禪師が書かれた『典座教訓』の中から「大心」の教えを説かれました。大心とは「人生の浮き沈みに遭つても、浮き沈みに惑わされることなく、生きる意味や仏様の教えを学ぶ絶好の機会ととらえて精進する」そんな境地です。それを実践して安らかな日々を送りましょうと話されました。

法話を聞いたあとマトリに移り、読経が続くなか、ご焼香していただきました。お墓の継承が難しい時代を反映してか、永代供養のマトリへの申込が増えています。



荘厳な雰囲気が漂うマトリの内部。



臨南寺の御開基

鈴木重成公三百六十回忌の法要

今年、臨南寺を創建された鈴木重成公が亡くなられて三百六十回忌に当たります。鈴木重成公は、曹洞宗の高僧の一人鈴木正三の弟であり、大坂代官を務めたのち島原の乱の平定に加わりました。乱のあと天草代官として荒廃した天草の復興に取り組み、三十二の寺院を建立、開拓や開墾に尽くしました。そのかたわら、かねて親交のあった萬安英種禪師を招いて臨南寺を創建されたのです。重税に苦しむ天草の人々のために石高半減を幕府に進言。自らして実現し、天草の人々の崇敬を今も集めています。

十月二十五日午後四時から本堂で、山形県永源寺、福島県弘安寺の両住職を招き、鈴木重成公三百六十回忌と御開基萬安英種禪師への報恩法要を執り行いました。



厳かに執り行われた鈴木重成公三百六十回忌の報恩法要。

年末年始のゴミは ゴミ用コンテナに 入れてください



十二月三十一日～一月四日の間、寺務所の向かいにゴミ用コンテナを設置します。お墓まわりのゴミはすべてゴミ用コンテナに入れてください。

墓苑を美しく清潔に保つていただきますようご協力をお願いします。

墓苑をご利用の皆様へ

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
- トイレにはトイレトーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーは水に溶けません。ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

編集後記

男たちはどうして戦いたがるのでしょうか。金儲けをしたがる心と戦争に突き進む心は、同じ根っこに根ざしているそうです。男社会をやめるしか解決しないのでしょうか。女性たちにお任せするしかないのかもしれませんね。(M)

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半～ 本堂にて
*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後三時
写経料・千円 椋伽林一階にて

『修証義』読書会

毎月第二土曜日 午後三時～
*二月・八月は、お休みさせていただきます。
*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ～っと」40号

平成25年12月

編集・発行：椋伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com